

広報

もり 中部の森林

私の森語り!「共に森林で動き、考える」
松本大学 准教授 中澤朋代

写真：高樽の滝 東濃署管内

各地からのたより

- ・ブナ坂国有林で登山道の雪渓切りを実施ほか
シリーズ
- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業、お役に立ちます国有林



林野庁中部森林管理局



2021/No.209



雪渓切りの様子

残雪に覆われた室堂

ブナ坂国有林で登山道の
雪渓切りを実施

【富山森林管理署】

六月二十九日、立山のブナ坂国有林において、室堂から雄山へ向かう登山道の雪渓切りが行われました。

この時期、まだ多くの残雪に覆われ登山道がわかりにくくなっている雪渓の箇所では、登山者が本来の登山ルートから外れて歩くことで、道迷いやスリップ事故が発生したり、高山植物を踏んで傷めたりすることがあります。

そのため、登山者の安全確保や高山植物の保護を目的として、毎年、雄山登山道雪渓切り実行委員会（室堂山荘・一の越山荘）をはじめとする山小屋関係者、立山黒部貫光株式会社、富山県警察山岳警備隊、環境省、当署などが協力し、残雪に覆われた登山道の位置がわかるよう、雪渓上に道を作る作業（雪渓切り）を行っています。

当日、当署からは十三名が参加し、スコップなどの道具を使って、固く締まった雪を少しずつ削り、



帰り際に出会った雷鳥のつがい

登山者が歩きやすいよう雪の階段や緩やかなスロープを作るなど、工夫を凝らしながら作業を行いました。

作業は、約二時間で終了し、完成を待ちわびたように雄山方面へ向かう登山客の方々や、つがいの雷鳥の姿も見られました。

立山黒部アルペンルートは、全線開業から五〇周年を迎え、注目されています。ぜひ、この機会にお越しいただき、今だからこそできる体験を楽しんでください。

**岐阜県立
森林文化アカデミーの
国有林実習で実験林等を案内**



【森林技術・支援センター、
岐阜森林管理署】

七月五日、岐阜署管内の乗政及び小川長洞国有林において、岐阜県立森林文化アカデミーのエンジニア科の学生二十三名が、国有林の施業について現地実習を行い、森林技術・支援センター及び岐阜署の担当者が、実験林や試験地等の概要について説明を行いました。

乗政国有林では、スウィンググヤーダによる搬出現場で伐採・造林一貫作業を見学した後に、「ヒノキ長伐期施業林」を見学し、林齢八十八年生と百八年生のヒノキ人工林の間伐や販売の概要について、岐阜署の担当者が説明を行いました。

この林分では樹冠や林床の状況を確認し、今後の施業方法について意見交換を行い、学生からは皆伐して再造林する、択伐して大径材とする等の意見が出されていました。



間伐実験林とドローンの飛行状況

また、小川長洞国有林の「ヒノキ間伐実験林」の実習では、間伐率の異なる試験地において間伐の効果やプロット毎の優劣を見学後、今後の伐採方法等について、学生同士の意見交換が行われました。生産・利用等の専攻分野に応じた様々な意見が出される中で、センター職員からは実験林の研究成果や今後の施業方針について説明を行いました。

最後にドローン空撮映像によって、立木販売の搬出現場の状況を視聴し、学生たちは見学等を通じて各々の専攻に応じた知識を高め、充実した現地実習となったようでした。

両署等では学校等からの要請に応じ、今後も国有林の案内やPRに努めてまいりたいと考えています。

**御代田南小学校で
森林体験教室を開催**



【東信森林管理署】

七月一日、長野県小諸市の浅間山麓にたたずむ天狗温泉浅間山荘と御代田町に所在する浅間山国有林において、御代田南小学校五年生児童九十名を対象に森林体験教室を開催しました。

まず、浅間山へと続く登山道での森林散策では、クイズや解説を通じて植物や森林の働きを学びました。児童たちは好奇心旺盛に林内を観察し、楽しんで学ぶことができましたようです。

次にヒノキ丸太を切る体験では、初めてノコギリを使う児童も多く、悪戦苦闘しながらも、直径一〇センチほどの丸太を思い思いの大きさに切断し、みんなで切り口から漂う木の香りを楽しんでいました。

また、ヒノキを削ったのマイ箸作りにもチャレンジしました。カンナの使用に戸惑いながらもヒノキの良い香りに魅了され、カンナクズを袋いっぱい集める児童も見受けられました。

最後にも、小枝を材料に人の顔をモチーフにした「もっくん」のストラップ作りに挑戦し、それぞれの個性が活かされた作品を完成させ、早速カバンに付ける児童もいました。

今回の森林体験教室を通じ、樹木や植物への興味や関心、木材の多目的な利用、森林の働きについて楽しみながら理解を深めることができました。



森林散策で森林の働きを学ぶ児童



マイ箸作り(上)、
もっくん作り(下)



群生する水無湿原のミズバショウ



観察会の様子

ミズバショウ群生地にて
観察会を実施

【富山森林管理署】

六月五日、富山県南砺市なんとしの水無みずなし国有林において、「NPO法人 利賀飛翔の会」主催の水無湿原観察会が開催され、会員十五名と当署から五名が参加しました。

標高一、四〇〇メートル前後の現地は、水無湿性植物希少個体群保護林に設定しています。湿原にはミズバショウ、リュウキンカ等の群生が見られ、周囲にはブナを主体とする広葉樹の天然林が広がっています。

富山県では、これら多様な自然を保全しながら自然とのふれあいの場を確保するため、白木水無しろきみずなし立自然公園として指定しています。

しかし、近年、土砂の堆積や水みちの変化による乾燥化（湿原の消失）や、イノシシによるミズバショウの食害が確認され、その対応が課題となっています。

このことから、富山県、南砺市、当署等の関係機関が連携し、利賀

飛翔の会との協働により、湿原の保全対策、イノシシの食害対策、木道整備などを実施するとともに、定期的に現地検討会や地域住民への観察会を開催しています。観察会では、湿原内に設置された木道を歩きながら、咲き誇るミズバショウ、リュウキンカなど、色とりどりの豊かな自然の色彩に感動し、笑顔で楽しんでおられました。

また、当署では、湿原の保護対策として、センサーカメラによるイノシシ等の生息調査や食害防止のためのワイヤーメッシュ柵の試験的な設置を行っており、この観察会に併せて、これまで実施した食害対策の効果検証や追加対策の検討を行い、後日、ワイヤーメッシュ柵の追加設置を行ったところです。

今後も利賀飛翔の会をはじめ関係機関と連携し、希少な湿原・植物群落の保全に取り組んでまいります。



刃物研磨講習会を実施



【南信森林管理署】

七月十九日、鉋等手工具の使い方・手入れの仕方について、採用後一年目から三年目の若手職員を対象としたOJT刃物研磨講習会を実施しました。

講習会は、署内職員にも呼びかけ、八名の参加がありました。

講師は、現場経験が豊富な野生鳥獣対策官（井上）と阿智森林官（古田）が担当しました。

折しも連日のように立木調査が実施されていたことから「伝家の宝刀」を磨く良い機会となりました。

最初に砥石には、種類と役割があり、①荒砥（面落とし）②中砥（荒仕上げ）③仕上げ砥石（総仕上げ）の使い分けや刃物に対する手の動かし方などについて学びました。

研ぎはじめは、ぎこちない手つきでちよこちよこ砥石を動かしていましたが、だんだんと砥石全体を使って刃物を研ぐことや焦らずゆっくりと時間をかけて研ぐよ

うに指導を受け、次第にリズムミカルな音が聞こえてくるようになりました。

また、初めて自分の鉋を研磨する職員も多く、新品の刃物特有の「コーティング」を取り除くことを勧められる場面もありました。

仕上げ砥石で十分に研磨した後、鉋の裏面から返しの研磨を行って、鉋の研磨を終了。

野外での講習であったため、近くにある「灌木の枝葉」で切れ味を確認し、力を加えず柔らかな葉がスパッと切れ、各人が納得のいく結果が得られました。

職場内のOJTについては、計画的に実施していますが、若手職員以外からも「鋸の目立て講習」をとの声もありましたので、次回計画することとしています。



講習会の様子

令和三年度 永年勤続表彰伝達式

【総務課】

七月十二日、中部森林管理局において、局勤務者を対象とした、永年勤続表彰伝達式を行いました。

式典では局長から、「永年にとたる、国有林野事業への功績に對しまして、敬意を表し感謝するとともに、苦楽を共にされたご家族の方々や、受賞される方々、支えていただいた職場の皆様にもこの場を借りて心からお礼を申し上げます。皆様方におかれましては、引き続きさらなる研鑽に努められ、健康に十分ご留意の上、それぞれの職務に、なお一層邁進されますようお願い申し上げます。」と挨拶があり、永年勤続表彰（三十年並びに二十年）の受賞者に対し、農林水産大臣からの表彰状が授与されました。

また、七月上旬から中旬にかけて、各署等においても、伝達式が行われました。

これを機に、中部森林管理局一

体となつて職務に邁進してまいります。

今年度の受賞者は次のとおりです。

◇永年勤続表彰(三十年)

越 秀寿(経理課)

宮地 源治(治山課)

小野 泰(愛知所)

小林 雄一(伊那谷治山所)

百瀬 裕章(富山署)

永井 正樹(北信署)

島光 芳典(北信署)

関 論(東信署)

古澤 博(木曾署)

古畑 義隆(飛騨署)

藤村 和重(飛騨署)

長屋 和幸(飛騨署)

坂口 博紀(岐阜署)

高橋 進(岐阜署)

◇永年勤続表彰(二十年)

井出 崇彦(保全課)

菅野 紀子(伊那谷治山所)

吉村美美子(木曾署)

坂井 晃(南木曾支署)

加藤 里実(岐阜署)

計 十四名

計 五名

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

【岐阜森林管理署濁河森林事務所】

首席森林官 林 圭樹

濁河森林事務所は岐阜県東部の下呂市小坂町に位置し、御嶽山の岐阜県側を含む飛騨川流域の約五、七七一ヘクタールの国有林と約九一



御嶽山（馬の鞍滝付近よりドローンによる撮影）

の官行造林を管轄し、森林官・行政専門員の二名で管理しています。

下呂市濁河エリアは、御嶽山自然休養林、小坂の滝めぐり、濁河温泉などの大自然を満喫できる豊かな観光資源があります。

外国人旅行者の受入体制を充実させ、他観光地と差別化した滞在型の観光地づくりを目的として、平成二十九年に当署・下呂市・岐阜県・観光協会・商工会NPO法人等で組織した「御嶽山美しの森推進協議会」が発足し、活動を行ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、思うような活動ができていないのが現状です。

昨年の七月豪雨において、当事務所が管轄する「落合国有林」を貫く県道「濁河温泉線」が甚大な被害を受け、令和二年度から三年度にかけて道路災害復旧工事が行われているため、令和三年度の木材生

産、森林整備事業を実施しないこととしました。また、小黒川担当区内の林道も甚大な被害を受け、おと、県道の復旧後、本署担当者と連携を密にして林道復旧に向けて取り組んでいくこととしています。



計画課との現地踏査の様子

本年は、令和四年度からスタートする「飛騨川森林計画第六次地域管理経営計画及び第六次国有林野事業実施計画」の本編成作業の年であります。六月に閣議決定された「森林・林業基本計画」に基づき、国有林野事業の公益重視の管

理経営を一層推進できるように山見を行ってまいります。
再来年三月末をもって、一つの区切りとなりますが、残りの官員人生をよりよい森林を作るために頑張っていきたいと思います。

■未来の担い手へのメッセージ

「国有林は、国民みんなのもの（国有財産）であり、森林管理署はその管理等を任されている」と、私は考えております。

この「国有財産」を次世代の国民へしっかりと引き継いでいただきたい。



林首席森林官（右）、小林行政専門員（左）

シリーズ

「私の森林語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「共に森林で動き、考える」



松本大学 総合経営学部
観光ホスピタリティ学科 准教授
中澤 朋代

自己紹介

富士山麓で自然学校の職歴を経て、環境教育・エコツアーリズム・持続可能な観光・自然体験活動をテーマに実践研究を行っています。

活動内容

爺・婆・父ちゃんの週末三ちゃん農林業の脇で山の沢ガニを捕まえ、川で魚と泳ぎ、脱穀後のもみ殻に飛び込み、大雪にまみれて遊んだ幼少時代を過ごしました。村では常に人に囲まれ、学校の先生もコミュニティの一員でした。大学を卒業して就いた自然学校やN G Oの仕事は、いかに自然との暮らし

の豊かさを継ぎ、活かすかを学ぶ研修でもありました。自然体験が求められる——山村や自然に関わる人の流れを作りたいと、プログラムや仕組みを学びました。



マルチカルチャーキャンプで森の管理を知る

近年の取組み「マルチカルチャーキャンブ（日系ブラジル人学校と信州・飛騨の子どもたちが対象）」では、沿道整備で倒し、放置された間伐材を運ぶ作業をプログラムにしてみました。子どもたちは丸太を動かすのに身振り手振りで意思疎通し、なんとか目的を

果たします。お互いに相手の様子が分かってくると林床の自然を尋ね合っていました。森は手入れして暮らしに利用できることを、体験の上で守り人から直接教わる貴重な体験もできました。



マルチカルチャーキャンプで
間伐材を運ぶ子どもたち

大学では「アウトキャンパス・スタデイ」でバス移動し、国有林の伐採作業を見て考える授業も行いました。山の斜面と寒さは慣れない学生には大きな負荷です。高性能機械が活躍する脇で、女性や高齢の林業士が危険を回避しながら、凍とした姿勢で急斜面を歩く姿を見て、学生は驚いていました。

メッセージ

自然と向き合うことで人類がそ

の一員と知る。体を動かすと心が動く。自然の中で動き、自ら気づく学びは、現代ではさらに重要だと感じます。

そして、急激な担い手減少が課題の農山村には関係者の多様性が重要ではないと思います。ヒントとなるのはSDGsと持続可能な開発の考え方です。課題を「包括的に考える」、「誰一人取り残さない」ことが不可欠で、その場づくりの一つが体験プログラムでは、と取り組んでいます。

○連絡先

松本大学 総合経営学部 観光
ホスピタリティ学科 准教授
〒三九〇ー一二九五
長野県松本市新村二〇九五ー一
<http://www.matsumoto-u.ac.jp>



国有林での林業見学



花々の宝石箱

中央アルプス(木曾駒ヶ岳)

きとこまがたけ

森林生態系保護地域

設定目的

日本海型気候から太平洋型気候への推移帯である本州中部に位置し、標高が一、二〇〇㊦〜二、九〇〇㊦の範囲にあることから、山地帯から高山帯まで、中央アルプスにおける原生的で多様な天然林を有しています。

その生態系を保護・管理し、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に役立てるため、保護林として設定しています。

地況・林況

中央アルプスの木曾駒ヶ岳から木岳の稜線の西側斜面(木曾側)に位置しています。急峻な地形で、高山帯には氷河地形が残されています。山地帯にはヒノキ、サワラ、クロベ等の針葉樹が、亜高山帯にはシラビソ、コメツガ、ダケカンバ等が、高山帯にはハイマツ、コケモモ、キバナシヤクナゲ等が分布しています。これらが成立できない箇所には、中央アルプス固有種のコマウスユキソウをはじめ、コマクサ、トウヤクリンドウ等の高山植物が見られます。



所在地
長野県木曾郡



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第4回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登いのうえ ひろと

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「昔の服装(仕事着)」

昔の現場の仕事着・作業服については厳密なルールは無かったようですが、時代や地域、職場ごとのそれなりのスタイルがあったものと思われまます。



明治時代末頃、松本小林区署管内の土場にて
(現在の中信森林管理署管内)

残されている明治時代末頃から昭和初期の写真を見ると、上半身は和服や法被姿の人もいれば、洋装の人もいました。また、下半身は袴はかまであれズボンであれ、すねに脚絆きゃはん(ゲートル)を巻いて動きやすくしています。これは戦後の作業風景にも通じるものがあります。



昭和初期頃、御料林の造林夫達
(現在の南信森林管理署管内)

ヘルメットはまだ普及していませんので、帽子を被った人や手拭いを巻いた人が目立ちます。これには安全対策や日除けの他に、虫よけなどの衛生的な意味もありました。



昭和初期頃、岐阜県小坂町の運材夫達
(現在の岐阜森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。





中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に、参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれらの事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



ニホンジカ食害防除対策の現地展示と検討会開催

1. ねらい

ニホンジカによる食害の防除対策を普及するため、「獣害対策展示エリア」を国有林内に設け、検討会を開催しています。

2. 概要

防護柵や単木保護資材、センサーや罠いワナなど、ニホンジカによる食害を防ぐための様々な手段を現地に展示した「獣害対策展示エリア」を、岐阜県加茂郡七宗町との森林共同施業団地内に設置しました。令和元年8月に展示を開始したこのエリアを用いて、県、市町村、林業事業者等の職員を対象に、岐阜県森林研究所、岐阜大学、ワナ開発メーカー、森林管理局がそれぞれの獣害対策を紹介し、参加者間で意見を交換する現地検討会を毎年開催しています。



獣害対策展示エリア

3. 成果

検討会については、令和元年度は72名、令和2年度は40名が参加し、「防除」「捕獲」の両輪による対策の検討、情報共有を実施しました。

また、展示エリア内のワナでも2頭のシカが捕獲されました。



現地検討会

4. お問い合わせ先

森林技術・支援センター 電話0576-25-3033

お役に立ちます

国有林

民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ



国民の森林・国有林

国有林モニターのご紹介



横井 憲一 (長野県)

◇自己PR…(趣味や特技など)

信州長野に生まれ育ちました。当時の学校行事は近隣の山への登山が恒例、喉は乾くし脚は痛いし、教師は競争させるし、体力に合わず、苦難の思い出です。

ある時、水壁(井上靖)なる小説を目にし、登山の知らない世界を知る。

子供にはとても不可能な登山であるが、何時か自分も体験したいと希望を持つようになる。時が過ぎ、水壁の舞台を見学できる機会が訪れた。それは松本から島々谷を越え、上高地に至る路を知り、訪れてみた。

長い長い道ではあるが、非

常に整備された、夢の世界に脚を入れた感動を覚えたのである。徳本峠が頂になるが、
天気が悪く、水壁舞台の前穂高東面は見れず、小屋番に慰めて貰う。

その後、山岳会に参加し、南北アルプス、東北、インドヒマールと夢を追ってきた。

当時は森林保全なる意識は無く、溪流は汚すわ、木は勝手に切るわ、登山工具は回収せず等々、森林保全関係者には申し訳ないことだらけでした。

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

今、私有林及び財産区の区有林を預かる立場になり、国有林に限らず林学の基本を学ばべく、モニターに応募致しました。

◇最後にひとこと

若い頃は球児。
今は若い農業青年と一杯。

新型コロナの感染リスクを下げるために全ての場面で引き続き守ってほしいこと

- マスク着用や三密(密閉・密集・密接)の回避を徹底しましょう。
- 換気を良くしましょう(室内の場合)。
- 集まりは、少人数・短時間を中心しましょう。
- 大声をたえず会話ができるだけ静かにしましょう。
- 共用施設の清掃・消毒、手洗い・アルコール消毒を徹底しましょう。

改めて、三密の回避、手洗い、マスク着用、換気、共用施設の消毒などの徹底をよろしくお願ひします。
詳しくは、次のQRコードを読み込んでください。

◇感染リスクが高まる「5つの場面」(内閣官房)

◇新型コロナウイルスについて(農林水産省)



モノクロ森林紀行に画像を追加しました。

モノクロ森林紀行は、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介しております。
今回、「テーマ白黒」に昔の写真七十一枚を追加しました。
ぜひ、お立ち寄りください。



追加した「4. 伐倒作業2」の画像



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

梅雨が明け、東京2020オリンピック競技大会が、7月23日から8月8日までの17日間で開催され、競技会場では、連日選手たちの熱戦を世界中が観戦しています。コロナ禍の中ではありますが、テレビや新聞報道等で、日本人選手の活躍に一喜一憂しているのではないのでしょうか。

しかし、新型コロナウイルスの感染急拡大に伴い、緊急事態宣言(8/2現在、6都府県)が発令されています。外出を避けて、東京五輪は、お家観戦にし、「3つの密」の回避を含め基本的な感染防止策を徹底しましょう。

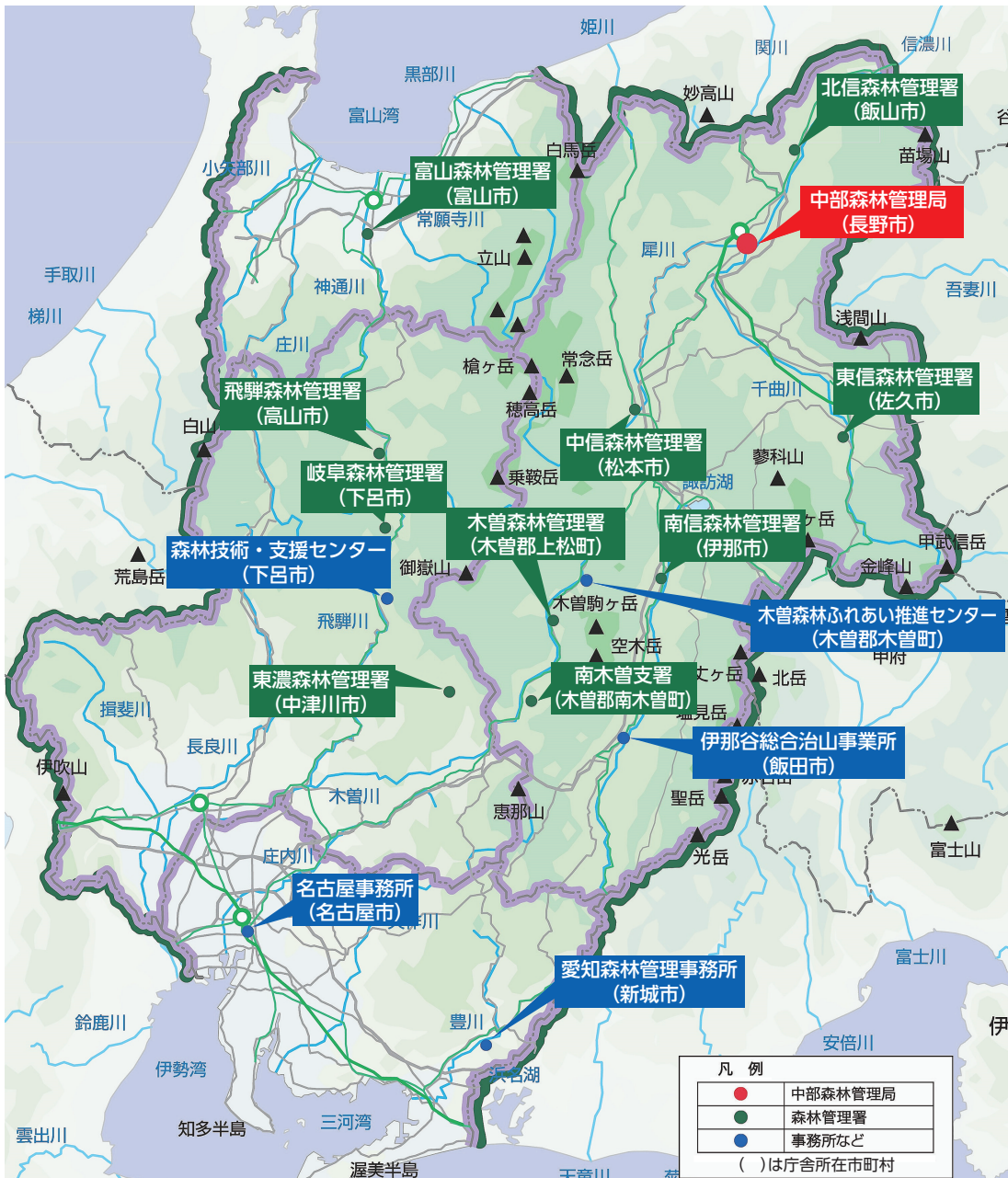
オリンピック観戦の合間に、いつでもお気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジ森(もり)」で、美しい風景もご覧になってください。



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



50.チングルマと雪倉岳・白馬岳(富山署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ



広報
「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町読書1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。